



広報 南日本

第 85 号

昭和42年6月15日

編集発行
南 国 市 広 報 委 員 会
事 務 所
高 知 県 南 国 市 役 所 内
(電 ④ 2111)

印 刷 川 北 印 刷 株 式 会 社
(電 ④ 3151・有線155-11)



市民の血液を市民へ〆のかけ声が始まった愛の献血運動は、昨年の六月からいまままでに延二百四人余りの献血者がありました。

献血した人たちのなかには三、四回の献血を数えている人たちもいます。

この献血運動はすべての市民のものにしたものです。



交通地獄から、交通戦争となり、「交通事故ゼロの日」もいまや「交通事故死ゼロの日」と、発展してきた。一歩家を外

に出れば、車の凶器がはらんしてきて、こどもやおとしよりでなくともあぶなくってやりきれない。▼カーブも都会から田舎へと浸透し、田舎道だといっでめめめ油断がならなくなってきた。▼一億総運転といわれ出した今日このごろは、免許証をもたないものの稀少価値が高くなってきそうなのがしてならない、車に乗らなければ自から事故を起すことはまずないからだ、といっで「ノホン」としては通れないのが現状だ。▼ところでこの世から交通事故をしめ出すことは不可能となってきた。しかし、少なくとも起すことのないようにはできるだけ。車に乗る人、歩る人それぞれ十分心しなければならぬことは、交通ルールの完全実施ではなからうか。夏にむかっての不快感は、居眠り運転の原因にもなってくる。

十分安眠をむさぼってほしいものである。